

「日本の美」総合プロジェクト懇談会（第7回）

ジャポニスム2018総合推進会議（第4回）

議 事 要 旨

○日 時：平成31年4月11日（木）17：00～17：50

○場 所：官邸2階小ホール

○有識者：小林座長、内永委員、千委員、林委員、森口委員

○政府等：安倍内閣総理大臣（議長）、河野外務大臣、柴山文部科学大臣、  
西村内閣官房副長官、野上内閣官房副長官（議長補佐）、  
兼原内閣官房副長官補、宮田文化庁長官、  
安藤国際交流基金理事長（主査）

1 開 会

2 総理挨拶

3 議 事

（1）ジャポニスム2018の成果について

（2）Japan 2019・響きあうアジア2019について

（3）意見交換

（4）日本博について

（5）意見交換

4 閉 会

（司会：野上内閣官房副長官）

1 開会

冒頭、野上内閣官房副長官より、「日本の美」総合プロジェクト懇談会の座長を小林委員にお願いする旨、紹介があった。

2 総理挨拶

安倍内閣総理大臣より、以下のとおり挨拶があった。

本日は、皆様、大変お忙しい中「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」及び「ジャポニスム2018総合推進会議」に御出席を賜り、感謝申し上げます。

日本の文化芸術は世界に誇れるソフトパワーであり、日本の文化芸術の魅力を世界に広めていきたい。こうした思いからこの懇談会で芽吹いた「日本博構想」は、明治150年、日仏友好160周年の節目となった昨年、「ジャポニスム2018」として見事に結実した。

2018年7月から本年2月までの約8か月間に、パリの人口をはるかに上回る350万人以上もの方に本物の日本文化を体感いただき、文化の都・パリで「ジャポニスム2018」は大輪の花を咲かせ、大成功を収めた。

本日御出席の委員の皆様方の、そして、昨年逝去された津川雅彦座長のこれまでの御功績に、深く感謝したいと思う。

津川座長からは、日本の文化芸術の素晴らしさを世界に紹介し、外交に生かしていくべき、との話を繰り返し伺ってきた。「ジャポニスム2018」の成功体験をフランスだけの一過性のものに終わらせてはいけない、将来につなげていってこそ、日本の文化外交の真価が発揮されると考えている。

ジャポニスムを通じて感じたのは、文化の力は国の力ということである。今後どのように「日本の美」を戦略的に海外に広め、文化外交を推進していくか、この会議で活発に御議論をいただきたいと思う。

3月から、米国及び東南アジア諸国において、それぞれ「Japan 2019」及び「響きあうアジア2019」が始まった。外務省・国際交流基金を中心として、関係府省や企業との連携の下、日本文化の大輪の花が米国及び東南アジア諸国で咲き誇るよう、官民力を合わせて、全力を挙げて取り組むようお願いしたい。

そして、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールすべく、文化庁を中心に関係府省が連携し、関係企業・団体の協力を得ながら「日本博」に取り組むようお願いしたい。

委員の皆様におかれては、引き続き、御指導・御協力をいただけるよう、よろしくお願い申し上げます。

(報道関係者退室)

### 3 議事

#### (1) ジャポニスム2018の成果について

安藤国際交流基金理事長より、資料1に基づき、ジャポニスム2018の成果について、説明があった。

#### (2) Japan 2019・響きあうアジア2019について

安藤国際交流基金理事長より、資料2・3に基づき、Japan 2019・響きあうアジア2019について、説明があった。

#### (3) 意見交換

次に、各委員による意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

##### 【小林座長】

- 私も一部の企画、美術展を中心に関わらせていただいたのだが、関係者の皆様の努力、これは痛々しいほどの各種、各会場、広い広がりの方数の企画を実行に移すということで、もちろんフランス側の協力や国のバックアップがあったおかげだろうと思うが、これだけの成功を収めたことに大変深い敬意を表したい。
- 先ほど、総理が日本の国力は文化にこそあるとおっしゃったが、私もまったく同感であり、そういう意味では、ヨーロッパの文化の中心の1つであるパリとヨーロッパ諸国や北アメリカは距離的に近いものであるから、かなり多くの国々の人が参加された。特に若冲展の会場などには、私のオランダの友人なども来ていたり、メキシコの新聞記者にインタビューを受けたり、フランス一国にとどまらない文化の伝達ができたのではないかと思う。
- 特に、若冲展においては、プティ・パレという美術館の一室から延々と行列ができて、館の外にまで長い行列が連なった。これは、フランスでは大変珍しいことのようなのである。しかも、私が一番印象深かったのは、7万5000人という30日間の観覧者の数の多さだけでなく、展覧会カタログが29.9ユーロと、少し半端な価格であるが、これを日本円に直すと、4千円弱なのである。そう安くはないカタログを2万3000人の方が購入された。3、4人当たり1冊を購入されたということは、日本の展覧会では通常100人に3、4冊という現状では考えられないような反響をいただいたことに驚いている。
- 19世紀後半のかつてのジャポニスムでは、葛飾北斎をはじめとする、浮世絵が西洋の美術家たち、あるいは文化人たちに大きな影響を与えた。これが、今回の若冲のみならず、琳派展や、あるいは奄美大島で名も知れず亡くなっ

た異色の画家の田中一村の展覧会などにも多くの方々が行かれ、こういう新しい日本の、まだ彼らが注目していなかった美術文化の影響が、これからどういうふう新しいジャポニスムの実りを得るか、そのあたりを楽しみに見守っていきたいと思っている。

#### 【内永委員】

- まずは、今回の成功に対して、日本の国民の一人として、それから、この懇談会のメンバーの1人として、本当に素晴らしかったと思うし、関わられた方々の大変な努力に心から御礼を申し上げたい。そういった中で、もっと日本人がこういった催しに積極的に関わっていくということをこれから企画にしていけることが大切ではないかと考える。
- 例えば、海外において若冲であるとか、歌舞伎であるとか、いろいろなものを御覧になった海外の方が日本にいらして、それについて日本人と話をしたときに、日本人が話ができるかという、当然、そういう方もいらっしゃるが、なかなかそこは、十分ではないと思う。世界に発信して、これだけ高い評価を得て、これだけ素晴らしいものがあるということに対して、もっと日本人はこれを誇りに思い、大事にし、自分の言葉で語るということを、これから広めていく必要があるのではないかと思う。
- ビジネスの中で日本の方々は、世界中と交流をしていらっしゃるが、本当の意味で人脈の交流というのは、文化の理解がないと難しいと思う。日本人自身が日本の文化の素晴らしさを理解するということは、これからの「日本博」というところにつながるのだと思う。海外で盛り上がったことは本当に素晴らしいが、一方、国内がもっとそれに対して、我々自身が積極的に情報発信し、それを評価するということを推進するべきだと思う。この懇談会のメンバーの1人として大変反省し、今後、是非、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思う。

#### 【千委員】

- 私も長い間、一盃のお茶をもって茶道文化を世界中に発信してきた。今、内永委員がおっしゃったように、我々、日本の素晴らしい文化、芸術、芸能というものを、こうやってフランスなり、あるいは他の国に紹介するということは、素晴らしいことだと思う。
- ただ、一番大きな問題は、準備ということが非常に大事なことの1つなのである。準備ということは、日本側から全てのものを持ち出すわけであり、持ち出すためには、それぞれの持ち出す1つの部門の大変な苦労がある。それは、言うに言われない苦労がある。簡単に、結果的に言えば成功した、何万

人が入ったと言うが、それまでの準備、それから持ち出していく、そのいわゆる苦労というものについて、内永委員がおっしゃったように、我々は、そうやって海外に日本のいい姿というものを紹介する、その裏には、日本人が余りにも我々のやるようなことに関心を持っていないということが、1つ大きな将来的な危惧になると思う。

- むしろ、外と内と両方で、こういうものを広げていかないと、単に海外で成功したとか、何万人集まったというだけでは、私は、日本の将来は非常に危ういと思う。今の若い人たちが、もっと日本の、まず伝統文化、そして、歴史、それから芸能、芸術というものに対して関心を持っていただかないといけない。今、上っ面だけのミュージックや、あるいは、それ以外のいろいろなものに対して行っているわけである。
- 京都などでも随分催しをやっているが、入っている人は中年以上であり、本当に言えば、若い人などは全然関心を持っていない。もう少し関心を持っていただきたいと思う。それから、私が申し上げたいことは、こういうことをやるためには、まず、観る、鑑賞である。次に聞く、ヒアリング、次に味わう、やはり、物を食べるのと同じように味わう、日本全体を味わうという気持ちを持っていただきたい。もう一つは、触れ合う、本当に自分がその中に入って日本の伝統文化は、こういうものかと、そういう触れ合うという機会をつくっていかなければ、こういうことは成功しないと思う。
- やはり、成功という意味は、単に上っ面でたくさん入ったとか、見てくれたとか、そういうことでは途切れてしまう。やはり、途切れないようにするためには、もっとしっかりした、やはり構想というもの、その構想と同時に、どういうところで、どういうようにやっていけばいいかという、その時期を見ないと、パリにしたって、ニューヨークにしたって、あちこちで毎日開催されているから、いろいろなことをやっている。こういうことを計画してやらなくても、もう向こうでやっている。それ故、割合に反響というものは、私は少ないと思う。いわゆる、そういう宣伝効果というものを、もしなさるのであれば、宣伝効果ということに対しても、やはり配慮をすべきだと思う。

#### 【林委員】

- パリに行った際、日本から桐野夏生さんと角田光代さんという本当に売れっ子の2人と一緒に作家会議があり、人数はそんなに多くなかったのだが、あちらの翻訳をしていらっしゃる方々や、日本文学者の方が、実際に自分が翻訳した方を目の前にして、とても喜んでいらっしやった。
- 私も琳派展や藤田展などを、いろいろ観させていただいたが、驚いたのは、若い方が多くて、染織美術館の日本の美がどういうふうフランスで紹介さ

れて、発展していったかというのは、若い学生さんが、カメラを撮ったり、スケッチをしたりしていることに心を打たれた。今、お二人が言っているように、これを日本に持ってきて、何とか日本の若い方と、あちらのスケッチをした方と結びつく手はないだろうか、そういうことを考えた。

- 今、何人もの方が観光で訪れている。若い方も随分多くなっている。それに応える日本の若い人が、どれだけの知識を持っているのかということに、皆さんも危惧していると思うが、これからの大きな課題にさせていただけたらと思っている。

### 【森口委員】

- 私は五十数年前に、パリで学生時代を過ごして、第二の故郷のように思っているパリで、こんなに素晴らしい催しをしていただけて感謝したいような気持ちでいる。それだけに、たくさんの方々が私のところに返ってきているのだが、日本の方々が、フランスの人たち、フランスを中心にするヨーロッパの人たちの感動や喜びを日本の人々は共有できなかったという、テレビも新聞もほとんど、私たちは知ることができなかったのはものすごく残念で、やはり、日本のこつこつと各地で働いている若者たちに、こういうことをちゃんと知ってもらい必要がある、それは、どのようにしたらいいのか、私はちょっとわかりかねるが、すごく考えなければならない問題だと思った。
- 情報の交換の道具が、近年すごく進歩したせいだと思うが、私が知った五十数年前とは大きく違う、個人的な情報収集力というのがあり、今回この催しの中で、本当に個人的に深く理解をし、これを享受なさっている方がたくさんおり、それが様々な、多様な受入れ方をしており、50年も経ってしまうと、様変わりするものだなと思った。
- 文化交流というのは、今回はバブリーにやっていただいたので、私は多少心配をしている。あとは何にもなくなってしまっていて切れてしまうことが心配で、これから文化を外交におっしゃるのであれば、やはり、恒常的に世界に発信するための人材や部署があって、そこがベースになって常に各国と連携し合っていていく中で、そこだったら、これをやったらいいというようなアイデアが出てくるように、オリンピックを中心に、この時期だけ動いてくださって、それで途切れてしまうことが、すごく残念であるので、何か枠組みづくりや、それと海外の日本文化会館も含めて、ちゃんと機能する組織をつくっていただき、早目の準備をやっていただくことを望みながら、頑張っていた安藤理事長に、心から感謝を申し上げたい。

#### (4) 日本博について

宮田文化庁長官より、資料4に基づき、日本博について、説明があった。

#### (5) 意見交換

次に、各委員による意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

##### 【小林座長】

- 近代オリンピックの理念は、スポーツと文化芸術のマリアージュと聞いている。オリンピックイヤーの2020年に、そのスポーツに重ねるように「日本博」という文化芸術の多様な企画が、今持ち上がっているところである。先ほど来、委員の皆様が、若い世代が日本の歴史や伝統文化に遠ざかっているということを危惧されているが、私も岡田美術館という、箱根に新しい美術館をつくったところに関係しているが、ほとんど美術館は老人産業のようになっているのが現状である。アンケートをとると、50代以上の来館者がほとんどであり、もっと若者を取り込む仕組みを考えていかなければならないと、日頃から思っている。
- もう一つは、ゆゆしき問題として、本物に出会わなくてもバーチャルなもので十分というような世代が増えていること、御承知のとおりだと思う。だから、今回は、外向きのものは2019年まででひとまず終わりにして、2020年には内向きの、特に将来を担ってくれる若者たちに本物を近づける、本物の凄さを体験してもらい、そういう努力をなさってくださいと期待している。我々が何か関わることがあれば御下命をいただければと、協力や貢献に微力を尽くしたく思っている。

##### 【内永委員】

- 今、小林座長がおっしゃったことは、全くそのとおりだと思う。「日本博」と言ったときに、いろいろ出てきて、どれも素晴らしいものばかりなのだが、時代的には室町から江戸くらいのものに集約されているのかなという印象を持った。例えば、縄文など古いところから、そして、平安の時代、奈良のものなど、時代を追って、どういう芸術があり、美術があり、遺産があるかという軸を、もし可能であるならばお考えいただきたい。
- 時代とともにどういうふうにくたのかということを理解することも、我々にとっては極めて大事だと思う。それから、本物に触れるということは、触れてみないと分からないくらいの価値だと思う。ただ、本物に触れても、よく分からないこともあり、説明文を読んでもまだよく分からない。私は、美術

館に行ったり、いろいろなところに行ったりしたときに、学芸員の方が説明してくださると、よく理解できるので、こういう人材をもっと増やすことも大事であると思う。

- そのため、本物たる所以のところをきっちり理解できるような、サポートといったことも、是非お考えいただきたいと思う。1回で全部はできないので、長い期間かけて、どういうステップでやっていくのかということも、お考えいただき、計画してやっていくことが大事だと思う。

#### 【千委員】

- 私もオリンピックの方の関係もしており、今、文化関係の方で、いろいろ構想しているのだが、宮田長官が先ほどおっしゃった「日本博」の全体的な構想は、大変いいと思う。私は、小さくやるよりも日本列島全部が動く博覧会というか、どこへ行っても何かがあると、何かに触れることができるということが、私はスポーツとともに文化を享受していただく世界の方々に対して大きなおもてなしになると思う。
- よく、おもてなし、おもてなしと言うが、ちょっとした思いやりということが日本人には欠けている。やはり、ちょっとした思いやりというものを、こういう博覧会を通じて日本人の本当の心を知るようにやっていかなければならない。
- そのためには、是非、資料6ページの「縄文から現代」「日本人と自然」と、日本人は自然共生であるので、そういう意味において、是非この分野でいろいろなことを外務省なり、文科省なり、文化庁なりにお考えいただきたい。国際交流基金とともに、やはり長い伝統の中で、先ほど内永委員がおっしゃったように、長い期間を、それを通じて、お越しになる方々に共通した1つの日本というものに対する味わい、この味わいを持っていただくようにしていただきたい。

#### 【林委員】

- とても素晴らしいと思うのだが、先ほど若い方という話になったが、雪舟や狩野派、こういうものを並べて若い方は喜ぶのかなということが、私の疑問である。私は、若冲というのは、最近稀に見るスターだと思っている。すごい行列であり、どの雑誌も特集を組んで、普段美術館に行かない人たちも行列に並んでいた。
- 是非、若冲に匹敵するようなスターを、何とか座長や長官のお力で見つけていただきたい。縄文も、今、縄文女子という言葉が出てきて、非常にマスコミに人気があるが、そんなに長持ちするわけではないと思う。私はどこかに、



うわっという人がいると思う。今まで全く知られていなかったが、あるとき、蓋を開けてあまりの素晴らしさにみんなが息をのむような、うわっという方を是非探し出していただきたいと思っている。

#### 【森口委員】

- 実は、私、着物をつくっているのですが、2020年に東京とロンドンとニューヨークで着物というタイトルのついた展覧会がV&A、メトロポリタン東京国立博物館で行われる。
- 伝統的な生活文化が、ものすごく消えてなくなりそうな状況の中で、世界がこうして注目をしていただいているときなので、是非とも「日本博」が「縄文から現代」「日本と自然」というテーマで、2020年までもうすぐであるが、全国で何かしらのことが行われるようにしていただきたい。宮田長官には、大変な御苦労があると思うが、まだ、これだけしかプログラムができていない。ロンドンの展覧会が2月から始まるのだが、そこに出てくる文章の校正刷りが私のところに来ていた。もう既に図録をつくっているのだが、日本では、まだ図録の手がかりも何もないような状態だろうと思う。
- 可能であれば、「日本博」の取組が各地域の小学校や中学校の先生方に、しっかりと伝わり、授業の中でちゃんと取り上げていただき、雪舟でも何でも構わないが、一度見ることの大事さ、何か変な墨絵があったなということの記憶だけでもいいのだが、小さいときに、学校の先生と一緒に連れられていくことの大事さみたいなものを、もう一度思い出して、自分たちの子供時代を思い出していただいたら分かるのだが、今、歴史には残してきてくれた、様々な文化を各地域で大事にしながら、少しずつでいいから早く始めないと、伝統的な、特に生活文化は壊滅的になくなりそうであるため、どうぞ、お助けいただけるよう、よろしく願いしたい。

#### 4 閉会

最後に、柴山文部科学大臣、河野外務大臣より、以下のとおり発言があった。

#### 【柴山文部科学大臣】

- 委員の先生方、本当に今日はありがとうございました。安藤理事長には、国際交流基金のいろいろなイベントで、毎回、私は出席させていただいているが、本当にありがとうございました。
- 我々文部科学省及び文化庁としては、「ジャポニスム2018」を日本文化の魅力や、日本の美を世界に発信する重要な機会であると位置づけ、全面的に協力をさせていただいたのだが、それが大成功に終わったという御報告をいた

だき、大変嬉しく思う。

- その背景には、やはり、文化と伝統をプライドとして持っている両国だったということもあると思うし、また、千委員から大変な御準備があったということもあったと思うのだが、この成功体験をしっかり「Japan 2019」「響きあうアジア2019」に生かしていくということが大切であると思う。文化に関する施策の総合的な推進を所管する立場として、しっかりと力を入れていきたいと考えている。
- また、「日本博」については、本日お集まりの皆様をはじめとする有識者の方々の思いを受けて、昨年6月になされた安倍総理からの御指示によって、宮田長官を中心に具体的な検討を進めてきて、そして、先ほど宮田長官から紹介をした「紡ぐプロジェクト」など、大変素晴らしい企画が既にスタートしている。「日本博」は、全国各地を舞台に、世界中の関心が日本に集まるオリンピック・パラリンピックの年、2020年を中心としつつ、その前後をまさしく先ほどお話があったように、文化の力で彩っていくという、かつてない規模のプロジェクトとなっている。
- この「日本博」を通じて、我が国の文化芸術の振興及び次世代への保存継承を図るとともに、文化芸術と日本人の美意識・価値観を国内外にアピールをして、その発展及び国際親善と世界平和に寄与していきたいと、決して大げさではなく、本気で我々は考えている。
- その実現に向けて、関係府省庁、地方自治体、そして、宮田長官からも話があったように、民間企業にもしっかりと物心両面で御協力をいただくということが必要だと思っている。また、国外への戦略的プロモーションのみならず、先ほど来、委員の皆様からお話があったとおり、これを国内の啓蒙普及ということにしっかりとつなげていきたいと考えている。日本人は、ブームで目覚めるという部分が多分にあり、せっかくブームができるわけであるため、これを継承していくということが大変重要だと思っている。
- 「ジャポニスム2018」の勢いお借りしながら、我々、語り部の育成、教育行政も所管する文部科学省でもあるので、例えば、リベラルアーツにこれから力を入れていくとか、あるいは文理融合というところで、文系、理系関係なく、こういった文化の重要性ということを教育の中でどのように生かしていくかということも充実させていきたいと思っている。引き続き、皆様には御指導いただけるよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 【河野外務大臣】

- 「ジャポニスム2018」が成功裏に終了したことについて、関係者の皆様、本当にありがとうございました。総理の代理で、7月の開会式に参加させてい

ただき、伝統文化からチーム・ラボのデジタル・アートまで幅広い世代に日本の文化というものを知っていただけた、見ていただけたのではないかと思います。

- 2018年は、フランスから日本に来る観光客が前年比で14%近く増えたということは、このジャポニスムの影響もあったのではないかと考えている。また、外務大臣として海外へ行くと、この間、ドイツに行ったときに侍展というものがたまたま開催されていて、日本の素晴らしい鎧が出展されていた。それは、日本から行ったのではなくて、アメリカのコレクションがドイツへ行ったのだそうで、今度の「日本博」は、そういう日本の美術品の海外からの里帰りというのものもあるのかなと少し期待をしているところである。
- 日本の文化外交予算というのは極めて限られているが、その前に、文化予算もフランスどころか、韓国と比較しても少ないというのが現実であるため、もう少し民間としっかり連携をしながら、いろいろなことをやっていかなければいけないと考えている。
- 「ジャポニスム2018」の成功を、次の「Japan 2019」「響きあうアジア2019」、そして「日本博」にしっかりつなげていけるように頑張っていきたいと思う。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(以上)